

新システムを整備

05年度(平17)入試

受験チャンス拡大



▲250人の出席があった神田キャンパスでの説明会

専修大学は21世紀の社会が求める「社会知性」の育成を目標にさまざま大学改革に邁進してきた。その一環として05年度(平17)入試から、「一般後期入学試験」「大学入試センター試験利用後期入学試験」という2つの入試制度と、同一試験日内の併願受験が可能となる入試方式を導入する(詳細は[こちら](#))。

新たな入試システムを高校の先生方に理解してもらうため、新入試制度説明会が5月14日、生田キャンパスで、同21日神田キャンパスで開かれた。

出牛正芳学長が本学の教育・研究理念と新キャンパスデザイン構想などを紹介し、八林秀一入学試験委員会委員長が「受験基盤を拡大し、多様な能力を持つ受験生に本学を志していただきたい」と新制度導入の経緯を説明した。その後、入学センター部長による詳細な解説が行われた。

1 一般後期入学試験

一般前期入学試験に加えて、一般後期入学試験を実施。2月9日から2月23日まで出願でき(窓口受付24日)、試験日は2月28日。

納得がいくまで大学選びにこだわりたい方には受験機会が増えることになります。

2 大学入試センター試験利用・後期入学試験

これまで大学入試センター試験利用入学試験は前期のみでしたが、05年度からは前期・後期の2本立てとなります。後期入学試験では、センター入試終了後の出願(2月9日から3月1日)となるので、特に国立大学との併願を希望する方にとって受験がしやすくなります。

3 一般入学試験、地区入学試験、二部入学試験で同一試験日内の併願受験が可能に。受験料負担軽減のための『ワンでい割引』導入

同一試験日に実施する他の学部・学科・専攻の併願受験が可能となります。

※ 一般前期入学試験で2科目の試験(経営C・経営D・英語英米文B・ネットワーク情報B方式)は3科目の試験(A方式・B方式)と試験方法が違いますので、同一試験日内の併願はできません。また、一般前期入学試験で選択科目として「簿記、会計」(商学部)または「倫理」(文学部)で受験する場合、他の学部と選択科目が異なりますので、同一試験日内の併願はできません。

【ニュース専修2004年6月号1面】

司法試験第2次短答式合格者 昨年上回る45人 ―現役4人含む―

最終決定に期待

04年度司法試験第2次試験短答式試験合格者が、6月2日法務省司法試験管理委員会から発表された。

最難関といわれる三大国家試験の一つで、本学からは564人(昨年度553人)が出願。昨年を大きく上回る45人(昨年度31人)が合格した。私立大学では15位、国公立大を含めた全大学では27位となった。

本学の合格者では、現役学生4人(3年次2人、4年次2人)が見事難関を突破。また多くの講座受講生、正法会会員が含まれており、最終合格決定までに行われる7月の論文式試験、10月の口述試験突破に期待したい。

今年の全体の傾向では、出願者は49,880人(前年度50,054人)、受験者は43,356人(同45,360人)と、ともに下がっているが、合格者は史上最高の7,438人(同6,986人。合格率17.16%)と健闘している。

合格者を年齢構成で見ると、平均年齢は29.54歳(同28.82歳)で、最低年齢は20歳と変わらないが、最高年齢は昨年より5歳延びて68歳となっている。これを性別で見ると、男性は5,943人、女性は1,495人で女性が20.1%を占めた。

【ニュース専修2004年6月号1面】

キャンパス探訪<16>・アートの旅

『人のいる風景』2点



『人のいる風景(早春の上野公園)』は、なじみの場所である。大噴水広場と京成上野駅までを結ぶ桜の回廊だ。桜の季節になると、花見の人波で埋まる。東京の原風景の一つでもある。



もう一つの『人のいる風景(東京暮色)』は、どこの繁華街のビルの前であろうか。昭和末から平成初年にかけて、大きなガラス窓をあしらったビルが建てられた。地震の際の二次災害の心配もあり、今はあまりはやらなくなった。

本学OBで日展会友、日洋会委員、埼玉県教育功労賞受賞者の宇佐美義夫氏(昭32商経)作で、共に100号の大作。都会の自然と人工物の対比、風景に溶け込んだ群像、東京の営みがそこにある。平成7年に寄贈され、生田キャンパス8号館1階ロビーを飾る。

【ニュース専修2004年6月号1面】